

「夏の感染拡大防止パッケージ(道案)」等に対する主な意見

1 有識者・専門家の意見

1-①

7月下旬からの感染者の急増に併せて、病床使用率の増加が続いていることから、人の移動が活発になるお盆の時期を控え、保健・医療提供体制の更なる強化を図るとともに道民の皆様に感染防止行動の徹底を呼びかけることは重要と考える。

なお、取組1の②「検査・外来体制の確保」に位置付けられている「抗原定性検査キットの活用促進」や「無料検査事業所の利用促進」、さらに「健康相談センターの積極的な利用」については、医療機関への負荷を軽減するためにも重要なことであることから、実際の行動に繋がるように取組2においても、利用者の視点に立って分かり易く周知して頂きたい。

1-②

全国的には感染者の増加傾向が頭打ちになりつつあるが、北海道は感染の立ち上がりも遅く、数(割合)的にも他府県に比べると低い状況にあることから、まだこれから増加する可能性があると考えられる。

一人一人が気をつけるとともに、関係機関の体制強化を適切なタイミングで実施することが重要。

1-③

従来と同様の対策を引き続き講じていくことになるが、なお一層の個人の感染対策が必須と思われる。引き続き道民へのキャンペーンを宜しく願います。

2 市町村・関係団体の意見

2-①

今回の「夏の感染拡大防止パッケージ」については、社会経済活動との両立に向け、「行動制限は伴わない」という趣旨であることを、道民に対し、正確な情報発信をお願いする。

2-②

新型コロナウイルス感染症の感染者が増加している現状で、「どうみん割」「北海道認証店応援クーポン」などの事業を実施していくには、道民の理解と感染防止対策の協力が必要不可欠であり、北海道として、経済活動との両立を目指していることを「ウィズ・コロナ」というようなわかりやすい表現で伝えることが重要。

「第12回新型コロナウイルス感染症対策有識者会議」における
今後の道の対応に関する主な意見

【基本に立ち返った感染防止行動の徹底】

- 基本に立ち返り、手指消毒、マスク着用、密を避ける等の原則に基づいて行動していただけるよう改めて道民一人一人に訴えてもらいたい
- 道民の行動、注意事項の周知を道や関係者が一体となって実施していただきたい
- 経済活動の維持と個々人が感染対策をきちんと行うことは表裏一体でなければならない
- 感染リスクの高い行動、低い行動、効果的な対策について改めて、道民や事業者にわかりやすく示していただきたい

【ワクチン接種の促進】

- 20代、30代の3回目接種や小児へのワクチン接種を進めることが大切
- 若い世代、特に10代へのワクチン接種等について、啓もう、啓発、促進をお願いしたい
- 未接種者に対する啓発をお願いしたい

【医療ひっ迫への理解】

- コロナ陽性者への対応と通常医療の救急患者の受け入れ両立は容易ではないということを道民に理解していただかなければならない

「第13回新型コロナウイルス感染症対策専門会議」における
今後の道の対応に関する主な意見

【検査・外来体制の確保】

- 発熱外来の検査キット不足の解消とともに、重症化リスクの低いと考えられる有症状者に対し、発熱外来において、受診前に検査キットを配布する体制の整備や、検査結果を登録するセンターを設置する場合は、発生届も一緒に作成する仕組みにしてほしい。

【ワクチン接種の促進】

- 若い世代への丁寧な情報発信に努めてほしい。

【基本に立ち返った感染防止行動の徹底】

- 道として、何をどう呼びかけるか、対象に応じた媒体活用も含め、検討いただきたい。